

クラス	QA304	担当教員	土井裕貴
テーマ	臨床心理学的視点から人を多面的にとらえる		
<b>著書・論文</b>  <b>研究課題等</b>	<p>【論文】・キャリアの浅い対人援助職者の疲労に伴う主観的な感情体験についての日誌調査 感情心理学研究 44-52 (2018)</p> <p>・対人援助職従事者におけるバーンアウト・感情労働の関係性—精神的な疲労に着目する意義について—、大阪大学教育学年報 83-95 (2014)</p> <p>・万能的なふるまいをする女子中学生とのスクールカウンセリング—Thはスクールカウンセラーとして何ができたのか—、大阪大学大学院人間科学研究科心理教育相談室紀要, 15-23 (2016) 他</p> <p>【研究課題】対人援助職の負担感についての多面的理解、質的研究、自己理解、介入研究等</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：心理アセスメント、質的研究法、多面的な他者・自己理解、児童思春期臨床			
<p><b>内容：</b> 自己紹介と、ゼミで扱っていききたいことは以下です。</p> <p>① 対人援助職のメンタルヘルスについて：対人援助職（以下、援助職）は教師や福祉職、心理職など、「援助をする」ことを仕事とする職業です。皆さんの中にも援助職に就く予定の方は多いのではないのでしょうか。しかし、援助職者の中には、就職後、早々に離職する方やメンタル不調に陥る方も多く見られます。それらの援助職者のメンタルヘルスに関連することをテーマに研究しています。最近は援助職者自身が自己理解を深めることが重要なのではないかと感じています。</p> <p>② 様々な質的研究法：教員は心理学的研究法の中でも質的研究法に関心があります。質的研究法の中にも様々な方法を用い、ストーリーや文脈を重視して、共通性だけではなく、個別性を描くことにも関心があります。</p> <p>③ 心理アセスメントについて：教員は知能検査、発達検査、人格検査（特にロール・シャッハ法）などの心理検査を用いてテストバッテリーを組み、心理アセスメントを実践してきました。最近は、心理検査、心理アセスメントの結果のフィードバックを治療的に活かす方法に興味を持っています。</p> <p>④ その他：臨床は主に児童期・思春期を中心に、カウンセリング、プレイセラピー、障害のある方々との動作法などを行ってきました。</p> <p>以上を中心に、臨床心理学的視点から、様々な手法を用いて人を深く理解することをテーマにしてゼミを進める予定です。</p> <p><b>学習目標：</b></p> <p>① 自身の関心、興味、疑問を追求し、積極的に情報収集する、自ら足を運んで体感するなどの主体性を身に着ける。</p> <p>② 自らの関心、興味、疑問について、意見を持ち、議論できる。</p> <p>③ 自身の関心をもとに、心理学的手法を用いて卒業論文を完成させ、心理学的研究の知識を身に着ける。</p> <p><b>授業計画等：</b></p> <p>&lt;3年次&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期：最初に、受講生と相談の上、前期の活動内容を決定する。文献輪読、ディスカッション、フィールドワークなどをどのように盛り込むか決定し、それに沿って活動する。</li> <li>・後期：各自の関心に基づき卒業研究のテーマを選定する。テーマの関連領域についての論文や文献について、各自で読み込んだ上で発表し、ディスカッションを通して、テーマを絞り込んでいく。</li> </ul> <p>&lt;4年次&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期：選定したテーマについて、適切な調査計画を立て、調査を実施する。前期中に調査を終了できるようにする。</li> <li>・後期：ゼミでの発表を通して、ブラッシュアップさせながら卒業論文を完成させる。</li> </ul>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>教員のテーマとの異同は問わず、自身のテーマを真剣に探求したい方を募集します。</p> <p>また、ゼミ運営については受講生と協同で行いますので、ゼミ活動にしっかりコミットしたいと思う方を募集します。</p> <p>受講生の関心に基づき、議論・文献を読んで心理学的な理解を深め、しっかりと卒論を書き上げる、厳しくも充実したゼミ活動を行っていきましょう。</p>			